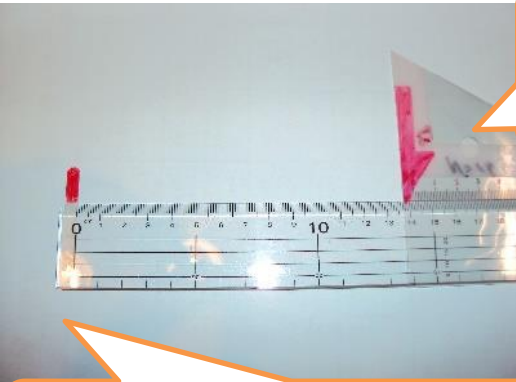
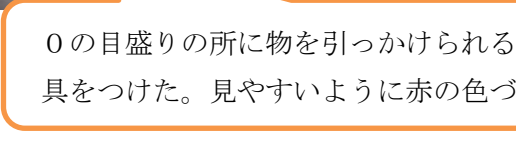



教材・支援機器活用実践事例

【定規で正確に測ることができるための指導】

子どもについて	学校・学年・学級	中学校 全学年 特別支援学級
	対象の障がい	知的障がい
	授業形態	小集団学習
学習上又は生活上の困難さ	子どもの特性や教育的ニーズ	<p>○手先が不器用で、定規を使つての学習では、定規をおさえる際のコツや力の入れ具合等に苦勞しており、困難さが目立った。</p> <p>○定規を使用する際、測定したい実物の端と定規の0の目盛りをうまく合わせられない。また、市販されている定規では、目盛りを読もうとすると0の部分がずれてしまい、正確に長さを測ることが困難である。</p> <p>○定規の0の目盛りの部分に物がずれないように工夫をすることやスライド式の補助具を測りたい物の端に合わせることで、何とか自分の力で測定することで、苦手意識を克服させたい。</p>
教材・支援機器活用	使用した支援機器・教材の名称	 <p>測りたい物の端に合わせられるようスライド式で動くようになっている。見やすいように赤の矢印を書いた。</p>  <p>0の目盛りの所に物を引っかけられるように補助具をつけた。見やすいように赤の色づけをした。</p> 
	活用のねらい	<p>○定規で物の長さを測る学習において、0の目盛りの補助具を利用して、正しく0に合わせることができる。</p> <p>○物の長さをスライド式の補助具でおさえ、正確に測ることができる。</p>
授業における支援 ・教材の配慮事項		<p>○定規の難易度を3段階にして、徐々に補助具なしの定規でも測れるようにしたいと考えた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・のんびりコース：0の目盛り、スライド式の補助具つき ・こつこつコース：0の目盛りの補助具のみ ・すいすいコース：補助具なし
子どもの変容や評価		<p>○始めのうちは、0の目盛りの補助具とスライド式の補助具が両方ついている物を使用した。慣れてくると定規をおさえるときのコツや力の入れ具合を把握し、正確に物の長さを測ることができるようになった。何度か使用するうちに、定規の使い方も慣れてきたため、スライド式の補助具がない（0の目盛りの補助具のみ）定規も準備しておき、様子を見ながら、レベルを上げていった。0の目盛りの補助具に物の端を引っかけることができるため、上手に測れるようになった。その後、繰り返し学習することで、時間はかかるものの、補助具なしの普通の定規でも正確に物の長さを測ることができるようになった。</p>